

そのためにも、広々とした大自然の営みの中で、子どもどうしの接触によって自然に育ってくる自由な人間性の認め合いを、教師は静かに見守り、保育する高い人格と教養が大切です。

「教育問題に関する東京都の世論調査」にもあるように、「教師の質の向上」「大学における教員養成と現場研修」なども考えながら、親たちの意識の向上を図りつつ、情報過多の現代を生きる幼児たちが、協動的でありながら、自主的で、正しい選択力を持ち、多角的で柔軟な思考力と、判断力を備えられるように、幼児教育を幼児にふさわしく、あらゆる面で再検討する必要がありますが、しょう。

(神戸常盤短期大学)

二月に入ると、立春そして

て節分がすぐにやってきます。節分の夜には、豆をまきます。その豆まきに、こんな思い出があります。

二、三年前のこと、母が

豆まきの大豆を用意していませんでした。母が言うに

豆まき  
堀田冬子

は、おつかいに行つたけれど、大豆はもうすでに、みんな売れてしまつて無いというのです。

母がつけ加えて言うにはあなたたちは、もう大きいのだから、豆まきをしなくてもいいでしょうということ

とです。ところが、これに対して

意外にも強い不満を表わしたのは、私達姉弟ではなく、帰宅した父でした。

節分に豆まきをしないで過ぐすというのは、おかしい。豆ぐらいどこかで売っているだろうと言つて、自分で捜しに行きました。

帰ってくると、豆は豆でも、虎豆を携えています。

これしかなかったというところで、父は声をはり上げ、虎豆をまきました。

しかし父曰く、「鬼のパンツは虎の皮だな。虎豆で鬼を退散できるのかな…」